

20078

パンフレット作成による心臓カテーテル看護の標準化

<sup>1</sup>心臓血管研究所、<sup>2</sup>心臓血管研究所、<sup>3</sup>心臓血管研究所

山崎 芳江<sup>1</sup>、福島 洋美<sup>1</sup>、牧野 奈緒美<sup>2</sup>、嘉納 寛人<sup>3</sup>、対馬 圭子<sup>1</sup>

<はじめに>当院は循環器専門病院として年間1700件の心臓カテーテル検査・治療を行っている。2004年からクリニカルパス（以下パス）を運用し看護の標準化を行ってきた。従来使用されている患者用パスは入院用パスを外来と病棟、カテーテル用パスをカテーテル室（以下カテ室）看護師がそれぞれに説明を行ってきた。しかし、1.互いに説明の内容を把握しておらず重複している。2.カテ後の指示に医師間のばらつきがみられ安静や退院指導において病棟看護師の戸惑いがみられる。3.退院後の合併症や注意点が明記されておらず患者から不安の問い合わせが入ることもあった。<目的>看護師の経験年数や所属部署に関係なく統一した説明、指導を行い、患者の不安軽減に繋げる。<方法>看護師を対象にアンケートを実施、患者パス用紙の見直しとパンフレットの作成を行った。<結果>入院前の準備から、入院当日の検査・前説明、カテ当日の準備・検査内容・安静指示、退院日の検査項目を修正し、新たに退院後の日常生活指導や穿刺部のなどの合併症発生時の対処法などをパンフレットに盛り込んだ。<結語>パンフレットを用いることにより説明内容、退院指導が統一され、患者の不安軽減につながる。また、医師、各部署担当看護師の連携と教育ツールにも成りえる。